

II 「豊かな文化交流のあるうるおいのまち」づくり



- 1. 文化の継承・世代間交流を図る事業の実施
- 2. 集会所・生活館への支援の 拡充を図る
- 3. 市民が軽運動や憩うことができる公園の整備を図る
- 4. 同性パートナーシップ制度の導入

厚谷 司 現市長



佐藤 学 市長予定候補

・文化の継承・世代間交流を図る事業の実施につきましては、本市で育まれた固有の財産でもありますので、社会教育事業としての地域文化に触れる機会のほか、文化継承に資する取組について、関係団体とも交流してまいります。

・集会所・生活館への支援の拡充を図るにつきましては、集会所と生活館につきましては、条例上の施設の区分により、考えなければなりません。避難所指定されている施設もあり、収支の状況を把握しながら、支援の必要の可否については都度、関係者と協議したいと考えます。

・公園の整備につきましては、令和4年度に「都市公園再編計画」を策定しており、結果に基づき判断してまいります。

・同性パートナーシップ制度の必要性については認めますが、道内の他自治体の動向も睨みながら制度導入の必要性については研究を続けていく考えです。なお、日頃より多様性・人権擁護の視点を忘れることなく対応してまいります。

1. 地域文化の継承は、伝えたい側の想いと、知りたい側の想いに違いがあることがあり、どちらかの想いが一方通行にならないように「伝わる」仕組みづくりを行政だけではなく、地域のまちづくり団体や市民団体と連携しながら進めていきます。また、こうした取り組みに持続性を持たすためには、ボランティアだけではなく、仕事として関わってもらうことも重要であり、必要な予算措置も行います。

2. 各集会所や生活館は、市民組織において運営を行っていただいておりますが、大半の施設の運営が厳しい状況を踏まえ、市民課長時代に運営費の補助金額の大幅な見直しに加え、多くの施設が避難所でありながら避難所に必要な発電機等の設置がされておりましたので、全ての施設に設置をいたしました。今後も地域の声を聞き、不安に寄り添いながら必要な支援を行い連携も図っていきます。

3. 市民の健康は地域の健康であり、まずは既存施設の機能充実や運動公園の市民解放の拡大を図ります。更に、今後計画されている公園整備計画においても軽運動や憩うことができる公園の整備を進めていきます。

4. 道内では札幌市、函館市、帯広市、北見市など道内8都市でも取り組みが広がっています。夕張市においても多様性を理解し合い、誰もが自分らしく生活する社会づくりに遅れることがないように、まずは、制度への市民理解の醸成を図り、先行する8都市の取り組みに学びながら進めていきます。

III 「子育てを応援するまち」づくり

- 1. 学校給食費の無償化の実現
- 2. 高校卒業までの医療費無料化の実現



- 1. 学校給食費の無償化の実現
- 3. 奨学金の周知と拡充を図る



厚谷 司 現市長



佐藤 学 市長予定候補

・学校給食費無償化の実現につきましては、生活困窮者等の対応は除き一定の負担は必要と考えますが、引き続き子ども・子育て施策全体の中で検討してまいります。なお今後も食材等の高騰に対しましては、必要な措置を講じていきたいと考えております。

・高校卒業までの医療費無料化の実現につきましては、高額な医療を要する方への対応等、被保険者全体の負担についても考えなければならない課題でありますので、慎重に研究してまいります。

- 1. 給食費の無償化は、食農教育と地産地消の考え方を取り入れて実施します。
- 2. 高校卒業までの医療費無料化を進めます。

厚谷 司 現市長

・奨学金の周知と拡充につきましては、現在利用者が少ない状況ですが、進学の際には夕張高校とも連携し、周知に努めてまいります。また令和5年度から実施予定の奨学金返還支援事業につきましては、奨学金返還者の負担軽減にとどまらず、市内事業者にとっても従業員確保に有効であることから、積極的に活用して頂けるよう周知してまいります。

佐藤 学 市長予定候補

3. 現在、無利子の奨学金や奨学金返済支援制度がありますが、利用は低調な状況であり、周知方法の工夫を図り、拡充には企業版ふるさと納税を活用するなど財源の確保も行います。また、令和5年度からは、市内で働く若者に向けて、奨学金返還支援事業が始まる予定です。奨学金を返済する若者にも、市内の事業所にも積極的にアピールしていきます。

IV 「子どもの笑顔があふれるまち」づくり

1. 夕張の自然環境と地域人材を活かした魅力ある夕張高校づくりと、その存続
2. 子ども達が意欲的に参加し、自ら学ぶ力を育む「対話型教育」の推進
3. 生理用品の学校トイレ配備の実施



厚谷 司 現市長



佐藤 学 市長予定候補

・夕張高校魅力化事業、存続につきましては、今後将来にわたり市内中卒者数が減少していくことから、令和5年度に「プロジェクトマネージャー」を採用し、高校、小中学校、地域、企業、行政の連携体制を確立し、全国からの生徒募集、地元進学率の向上を図る取り組みを進めます。

・北海道教育委員会の「これからの高校づくりに関する指針」改訂版において、「通学可能圏域内」でのあり方検討が示されているが、本市から他市町の高校への通学は現行、困難であることから将来にわたっての存続は必須と考えますので、今後も市教委・夕張高校と連携してまいります。

・対話型教育につきましては、学習指導要領においても重要事項とされており、小中学校において授業において実践しております。

・生理用品の学校トイレの配備につきましては、令和5年度に設置すべく対応したいと考えております。

1. 夕張高校は普通科であり、専門学科の設置議論は進んでおりません。しかし、地域の資源を活用して夕張ならではの学びをつくることは重要であり、高校からではなく、むしろ幼少期から高校まで一貫した取り組みが行われる必要があります。更にこうした取り組みを学校側に要求するだけではなく、地域自らがそうした体制を構築し、地域全体で子供たちの学びを支える意識を高めることが求められています。夕張の自然環境や高齢化社会における住民同士の助け合いの生活を肌で感じながら学ぶことも良いでしょう、まずは、子供達と本気で向き合う大人のネットワークづくりを進めることが教育の充実、夕張高校の存続に繋がると考えます。

2. 対話型の教育の推進は、これまで「聞く」授業とは異なり、互いの考え方の違いを認めつつ、深い思考力を育む教育でありますので、学校現場だけではなく、地域も協力をしながら身近な地域資源を活用して対話型教育の環境づくりを行っていくことが重要だと思えます。

一方で現在、小中学校では不登校に悩む児童・生徒が増えています。こうした課題は一過性ではなく、今後も起き得る課題であり、そうした子供達が学校や家庭以外の場所で、人と繋がりを持つことができるカウンセリング機能のあり方について見識を深め、早期に機能の設置を目指します。

3. 小中学校での設置を実施します。

※ 2023年4月の夕張市長選挙 予定候補者のお二人から寄せられた公開質問への回答は以上です。

日本共産党 個人の尊厳とジェンダー平等のための

JCP With You

JCP YUBARI
あなたのまちの頼れるチーム。

櫻井あき公式LINEで大切な情報をお届け！お友達 +追加 お願いします

櫻井 あき
公式LINE
@ 721zlnzm
QRコード



LINEで「民報ゆうばり」や大切な情報をお届けします。
ご質問・ご意見・ご要望・お困りごとのご相談など、
☎ ☑ LINEからもお気軽にお寄せください。

JCPとは : Japan Communist Party (日本共産党)